

平成27年度第10回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成28年3月11日（金）9：30～10：10

場 所：各コア校（遠隔配信）

議 題：

1. 平成27年度SPOD事業経費について

- ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業収支報告書（案）
【資料1-1】
- ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費支出内訳（案）
【資料1-2】

2. 平成27年度SPOD内講師派遣について

- ・平成27年度SPOD内講師派遣アンケート結果
【資料2】

3. 平成28年度SPOD内講師派遣について

- ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム一覧
【資料3-1】
- ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(担当大学別)
【資料3-2】
- ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望理由等
【参考資料1-1】
- ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望一覧
【参考資料1-2】
- ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要
【参考資料1-3】

4. 平成28年度SPOD事業計画について

- ・平成28年度SPOD事業計画（案）
【資料4】

5. SPODフォーラム2016について

- ・SPODフォーラム2016 スケジュール（案）
【資料5】

6. その他

平成27年度 SPOD内講師派遣事業についてのアンケート 集計結果

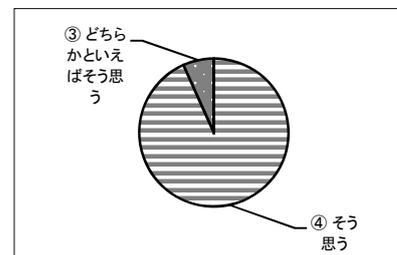
SPOD内講師派遣事業実施校：22校

アンケート回答数：22校

回答者：計32名（内訳：FD担当20名，SD担当5名，事務担当7名）

1. SPOD内講師派遣事業を来年も継続したらいいと思いますか。

	回答数	割合
④ そう思う	28	121.7
③ どちらかといえばそう思う	2	8.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	130.4



2. SPOD内講師派遣事業により、学内でどのような成果や変化がありましたか。

○FDプログラム

1	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の知見が深まった。 ・講師の講義後，方法を踏襲し自分の教授活動に取り入れている教員がいる。 ・教育の実績を残し，積み重ね，体系化していくことの重要性（教育の可視化・説明責任）が分かった。
2	<p>教員各自が研修内容を参考に授業向上等に取り組んでいる。学部・センターによっては，簡易版ティーチング・ポートフォリオを作成する取組もはじまっている。今年度から，過年度に実施した研修会（今年度の場合は2014年度に実施した研修会）について，その後実際に自分の教育や授業等の向上にどのように生かされたのか，生かされていないのか，検証調査を行う（2～3月実施）。調査結果については，次年度以降に，機会があれば報告する。</p>
3	<p>SPOD講師派遣事業で，普段話をしたことが無い教員同士が話をする機会となり，色々な場面で話ができるようになったようです。大学内での風通しが良くなることで，今までにない動きが出てくることを期待しています。</p>
4	<p>事業の受講により，授業力のUPや授業改善に取り組む教員が増えている。この成果を検証し，さらに参加者を増やしていくことが課題である。</p>
5	<p>講師の先生に本学のFDの取り組みが充実していると評価されたことで，今後も継続して改善していけばよいと思いました。</p>
6	<p>毎年，シラバス作成法についてFDを実施することによって，非常勤講師を含めた全教員に対して，学生にとって理解しやすく，達成目標が明確なシラバス作成について，理解が深まり，認識が広まった。特に文科省の推奨する単位の実質化に関する項目について，理解の徹底が見られた。</p>
7	<p>学内全体の成果や変化を検証することはできなかった。講演内容が授業改善に関する内容なので，FD研修後の各自の授業を見直したり，工夫するきっかけになったことは間違いはない。</p>
8	<p>昨年度より，「授業改善」に重点を置きFD研修を行い，少しずつ教員の意識が高まってきている。</p>
9	<p>各教員が，自分の授業計画について，長年の経験だけではなく，改めて課題分析図の視点を活用しながら授業構成を見直すように意識されてきた。組織全体での活用には至っていないが，平成28年度シラバス作成にあたっては，学科によっては従来のシラバスを一度リセットし，学科が掲げた学習成果の獲得に必要な内容を再検討するなど，学生主体の授業のあり方を改善する動きもあった。</p>

10	本校は、平成27年度より本格的に全学でLMSを導入し、その活用推進を始めたばかりである。また、高専機構本部はICT活用教育とアクティブ・ラーニングを推進している。このような背景から「効果的なeラーニングの活用方法」の講師派遣を依頼した。参加者の記述式アンケートから、「LMS使用におけるアイデア、コツを共有できた」、「eラーニングに関連する知識、デザイン方法、運用、著作権への注意がわかった」といった良い成果が見られる。また、選択式アンケートから参加者全員が満足する内容だったと言える。今回の参加者は13名で少ないようだが、前期末試験直前の開催日程から考えると意欲的に参加した教員ばかりだったと考えられる。現在、本校のアクティブ・ラーニング推進は組織的ではなく、ボトムアップ形式で進んでおり、まずは今回の参加者のような意識の高い教員から活用推進が広まることが望ましいと考えている。今回の講師派遣事業の後もアクティブ・ラーニング研究会は継続しており、有意義な講演だったと考えている。
11	平成27年度の講師派遣事業は、「今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート」というテーマであり、授業に取り入れ易い手法については、すでに授業で試行的に実施している教員もいる。
12	他の教育機関における教育裁判の事例や、その際の裁判所の見解を知ることができ、有意義な講演会であった。また、学生や保護者等に対する教員としての心構えについて理解を深めることができた。
13	「受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り」（6月3日開催）に22名の教員が参加し、授業中にアクティブ・ラーニングを取り入れるための様々なテクニックを学んだ。来年度からの学科再編に伴い、昨年度からアクティブ・ラーニングの考え方や手法を学ぶための研修をSPOD講師派遣事業を利用して続けてきた。これらの研修によって多くの教員が少しずつそれぞれの授業の中にアクティブ・ラーニングを取り入れるようになってきている。また、SPOD講師派遣事業の研修をきっかけにさらに学外の研修に参加してより深く学ぼうとする教員も増えた。

○SDプログラム

1	日常業務でなかなか研修に参加できない中堅層の職員が、SPOD講師派遣事業により学内開催することで多数出席したことが一番の効果と思われる。中には、その後で開催されたSPOD研修の参加も見られた。また、アンケート結果から自分の業務に生かせる内容であったとの回答93%、業務への取り組みが改善されると思うとの回答が83%であったことから成果があったと思われる。
---	---

○FD・SDプログラム

1	講師派遣事業において様々なテーマを扱っていただけのことで、本学組織または職員のニーズに応じた講座を適宜選択し提供できている。今回は部局、階層を縦横断して参加できるテーマで実施したことで組織全体の連携に繋がる意識改革の一助を担えるものとなったと考える。
2	学内での効果検証まではできていないが、受講者向けの事後アンケート結果では、全員が「研修は満足できるものだった」との回答をしており、参加した者にとっては非常に有益なものになったと思う。
3	今年度は、本学ではプロジェクト・マネジメントを受講した。今回の事業で目に見えての成果や変化は見られないが、学内の実習企画等の立案において、プロジェクトマネジメントの見え方を意識し導入した部分もあった。どちらかというとなすぐに使える技法や手法が多くて大変参考になったと考える。
4	全学的に年1回実施しているSPOD講師派遣事業によるFD講演会には、教員の約7割が参加し、全教員の教育研修の機会提供とともに、学科を越えた意見交換の場として機能しており、教員のFDに取り組む姿勢や授業改善への意欲が高められている。また、若手教員が主体的・積極的に近隣大学主催のFDスキルアップ講座に参加し、授業実践のための能力向上に努めている。 本年度の「大学の危機管理～事例から考えるハラスメント～」では、ハラスメントの定義、大学職員に求められる危機管理、事件・事故の具体例、ケースメソッドなどについて、グループワークを行いながら学んだ。学んだ内容は各職員のハラスメント防止に向けた自己啓発に役立つと感じられた。

5	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの見せ方について新しい発見ができ、それを活用する職員も多くなった。 ・実際の業務に活かせるようになってきた。
6	特に、具体的・組織的な動きはなかったが、教職員のハラスメントに関する意識は高まったように思える。
7	具体的な事例をもとにワークショップ形式で行われたため、ハラスメントについての意識が共有できたと同時に、本学が留意しなくてはならないことについて、意見交換ができました。ハラスメントは受ける側は自分のこととして強く認識できるが、している側が鈍感であるために起きると思われるので、効果についても不明な点は残るものの、全体的な研修成果は大きかったと思います。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する意識が全体的に高まった。FD参加の意欲が高まった。 ・自分の授業の在り方をふり返ることが出来ました。常時、学んだ内容を忘れずに改革する意識をもって実践しなければと思います。 ・委員会の内容の幅が広がった。
9	・学内の成果・変化についてはわかりませんが、個人においては研修によって自分の仕事で役立つ知識を得ることができたので、あまり目には見えないが、研修で得た知識を意識し、業務を行うことで変化や成果を感じることはできた。

3. SPOD内講師派遣事業への要望があれば、具体的にお書き下さい。

1	引き続き実務スキルから大局的な視点での業務改善まで幅広いテーマでご提供いただきたい。また、既に各大学では第3期中期目標期間中の女性管理職登用目標値を公表しており、 女性リーダー養成へのプログラム も望まれるのではないかと。
2	SPODで行われているプログラムについて、専門性の部分があり、難しいことがあるため全ての分野を本学の教員がカバーできるわけではないため、講師派遣で専門家による教授があり大変助かっている。今後、さらにポリシーの検証等を含めて、大学改革が行われていくため、講師派遣プログラムもマンネリ化するのではなく、常に新しい提案や示唆ができる講義内容であっていただきたい。
3	全学的なFD活動を進めるにあたり、SPOD講師派遣事業は大変有効に機能しており、SPODとの連携は不可欠である。 SPODの支援は今後も継続していただきたい。
4	他の加盟校の先生方を話し合う機会があるが、本学でもそうであるように、多くの教育機関が、 “対応が難しい学生” （例：成人型アスペルガー症候群や境界型人格障害などの学生）への対応に関する企画があれば良いという意見が多かった。相応しい講師がおられれば、その講義に期待いたします。
5	SPODの研修会はどれも有意義なものが多いので、年度につき1件だけでなく、派遣予算は派遣先（派遣をうける大学等）が負担するので、複数回の派遣依頼を受けてほしい。
6	講師を捜すことがまずなかなか難しいので、 継続していただくと非常に助かります。 また、研修内容も色々な中から、自分の大学に必要なことを選択させていただけるというシステムも、現状問題となっていることや気になることについて研修を受けることができるようになるので助かっています。
7	積極的に活用したい新規のメニューが用意されており、期待できます。この事業の運営にあたる愛媛大学やコア校の負担は相当のものですが、本学でもFD活動の推進に寄与しており、来年度以降も継続していただきたいです。
8	講師派遣を年度2回にして、同年度内にFDとSDそれぞれ1回お願いできるようになれば有り難いです。両方で毎年お願いするのではないのですが、そういう年度もあるように思います。
9	・SPOD内講師派遣事業は、大学教職員が個々に出張することなく、自大学において同時に情報や知識を共有し得ることができる、非常に活用しやすい機能的な研修システムであると考えていますので、より充実したプログラムの策定を望みます。
10	今後も継続して派遣事業を行ってほしい。
11	講師の先生方が空き時間を工面して来学していただけることに感謝しています。
12	これまで通り続けていただけると有難いと思います。

13	・授業改善ではないのですが、出来れば、アンケート分析、統計解析の派遣事業をお願いします。（論文レポートの作成指導に活かせるので。） ・学生の学ぶ視点に立っての授業を心がけるように努めるためには、定期的な研修が必要である。
14	・学習障害を持つ学生に対しての大学としての対応に関する内容の事業を要望。
15	講師派遣について、具体的に講師名の希望もできればいいなと思っております。（難しいとは存じますが、ご検討いただければ有難く思います。）
16	いつも有意義な研修を受けることができ、深く感謝しております。事業計画は大変かと思いますが、伝統的、基本的な内容を大切にしながらも新規の内容が充実していくことを希望しております。厚かましいお願いですが、今後も楽しみにしています。
17	様々なコンピテンシー育成に関連して、正課授業においてどのような授業形態を実施して、どのようにコンピテンシーを評価すればよいか、について模索している。そこで、このようなコンピテンシー育成に関して、一般教員への意識づけと動機づけとなる講師派遣事業内容を期待しています。
18	毎年、高専向けの講師派遣事業を増やしてきていただいているので非常に感謝している。今後も、高専向けの派遣事業の充実をよろしくお願ひしたい。
19	（要望ではないが）平成28年度の講師派遣プログラム概要を見るかぎりでは、SD向けの魅力的なプログラムが複数見受けられるが、残念ながら、1高専に講師を派遣してもらっても、事務職員数が少ないため、ワークなどを行っても、仲間うちだけの議論になってしまい、多様な意見を聞く機会にもならず、効果のほどはそれほど大きくはないと思われる。また、大学と高専とは、同じ高等教育機関とはいえ、設置法（組織）やミッションが大きく異なるため、職員のキャリアプランも大学職員とは異なる点が多々あり、大学職員向けのプログラムがそのまま高専職員にも当てはまるものではない。従って、今後も講師を派遣してもらおう予定はなく、高専機構が主催する階層別・業務別の研修会・説明会への参加を優先せざるを得ない。
20	規模の小さな本校にとっては外部講師によるFD／SD活動は大変重要な役割を果たしており、今後も引き続き事業の継続を希望したい。

4. SPOD全体への要望があれば、具体的にお書き下さい。

1	大学教員向けの内容をより充実していただきたい。
2	連絡や報告も確実にいただいており、特に意見はありません。ありがとうございます。
3	ひきつづき、四国内でのFD活動の充実をはかっていただきたい。
4	遠隔教育の場合に、画像がもう少し鮮明になるなど改良されればいいかと思ひます。
5	・SPODフォーラムには、日本全国の大学から教職員が参加していますが、設置形態別の研修も欲しいものです。
6	いつもお世話になっています。SPOD研修があるおかげで、本学のような小規模な短大でも有意義な研修を気軽に受けることができます。行事、会議、授業などで受けたくても受けられない研修もあります。準備は大変ですが、遠隔授業で受けられる研修がもう少し増えるとありがたいと思ひます。
7	・今後も、夏休み等の期間で開催お願いします。授業改善だけでなく、内容も幅広くした方が好いと思ひます。 ・年間通してまんべんなく研修があると好い。
8	・教職員レベルアップのために取り入れるべきSPOD研修があれば、積極的に取り上げていただきたい。
9	感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも宜しくお願ひします。
10	たくさんの研修プログラムを用意していただき感謝いたします。本校から学外の研修への参加者はまだ少ないのが現状ですが、引き続き多くの教職員の参加を促していきたいと思ひます。

平成28年度SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧(案)

県名	大学等名	ジャンル	No.	プログラム名	講師担当校
徳島	徳島大学	授業改善・教授法	6	大人数講義を魅力的にするテクニック	香川大学
	四国大学・四国大学短期大学部	高専向け	20	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	阿南工業 高等専門学校
	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	授業改善・教授法	14	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント	高知大学
	徳島工業短期大学	業務改善	35	身近なデータを活用した教育改善	愛媛大学
	阿南工業高等専門学校	業務改善	35	身近なデータを活用した教育改善	高知大学
香川	香川大学	授業改善・教授法	9	ディープラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法 ～物理、化学の実践例より～	高知大学
	香川県立保健医療大学	授業改善・教授法	11	効果的なeラーニングの活用方法	愛媛大学
	高松大学・高松短期大学	業務改善	30	大学組織を理解する	愛媛大学
	香川短期大学	学生支援	41	学生の主体性を促す学習支援	愛媛大学
愛媛	愛媛大学	授業改善・教授法	7	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	高知大学
	愛媛県立医療技術大学	業務改善	31	後輩の成長を促すコーチング	愛媛大学
	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	授業改善・教授法	9	ディープラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法 ～物理、化学の実践例より～	高知大学
	松山大学・松山短期大学	事例紹介	43	学生が輝くFDの実践事例	愛媛大学
	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	コンサルテーション	1	SPOD課題発見コンサルテーション	愛媛大学
	今治明德短期大学	学生支援	41	学生の主体性を促す学習支援	愛媛大学
	環太平洋大学短期大学部	学生支援	41	学生の主体性を促す学習支援	愛媛大学
	新居浜工業高等専門学校	高専向け	17	講義VTR簡単作成ワークショップとアクティブ・ラーニングへの活用	阿南工業 高等専門学校
	弓削商船高等専門学校	高専向け	21	高専生を元気にする学生指導法のコツ	阿南工業 高等専門学校
高知	高知大学	業務改善	30	大学組織を理解する	愛媛大学
	高知県立大学・高知短期大学・高知工科大学	プログラム開発	16	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	徳島大学
	高知学園短期大学	危機管理	42	事例から考えるハラスメント	愛媛大学
	高知工業高等専門学校	高専向け	20	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	阿南工業 高等専門学校

平成28年度SPOD事業計画（案）

1. SPOD共通事業

- ・SPODフォーラム
平成28年8月24日（水）～26日（金）（3日間） 開催場所：愛媛大学
「全体テーマ：経験を学びに変える」
トップリーダーセミナーを併せて開催
教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）後援
- ・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計24回） 開催場所：各加盟校
原則として、1法人あたり1回とする。ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。
- ・FD・SDに関する調査研究
- ・SPOD将来構想ワーキンググループ
- ・情報提供サービス
 - ①研修プログラムガイド2016の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）
 - ②平成28年度SPOD活動報告書の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）
 - ③SPODホームページの管理・更新
 - ④SPODメールマガジンの発行（月1回程度）
- ・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

- ・FD担当者研修 開催場所：愛媛大学
- ・新任教員研修（年5回）の実施・公開 開催場所：各コア校（愛媛大学は2回実施）
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（年2回）の公開・実施
 - ①全加盟校教員対象（年1回）
開催場所：徳島大学
 - ②高専対象（年1回） 開催場所：愛媛大学
開催場所：愛媛大学
- ・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）
開催場所：高知大学，愛媛大学
レベルⅠ（新任職員研修） 1回（高知大学）
レベルⅠ 1回（愛媛大学）
レベルⅡ 1回（愛媛大学）
レベルⅢ 1回（愛媛大学）
共通科目 1回（愛媛大学）
主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学，愛媛大学
- ・国際連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学
- ・社会連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学
SPODフォーラム2016において開催
主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年4回）
開催場所：愛媛県，香川県，徳島県，高知県
主担当：SPOD事務局 協力校：各コア校
- ・職員のための講師養成講座（年2回） 開催場所：愛媛大学2回
主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

4. SPOD運営

- ①総会（年1回）
- ②ネットワークコア運営協議会（月1回程度）
- ③事業評価委員会（年1回）
- ④監査（年1回）
- ⑤その他
 - i. FD／SD分科会
 - ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催
 - ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催
 - ii. SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

SPODフォーラム2016開催スケジュール(案) 全体テーマ:「経験を学びに変える」

会場	A	B	C	D	E	F		
建物名	共通講義棟B (旧法文学部講義棟)	共通講義棟B (旧法文学部講義棟)	共通講義棟B (旧法文学部講義棟)	法文学部2号館	法文学部2号館	愛大ミュージズ	愛大ミュージズ	
教室名	302講義室	303講義室	404講義室	第一会議室	305講義室	アクティブ・ラーニングスペース2	M24	
定員(名)	30	30	40	60(6人掛けの場合)	90(固定机)※講義式	36	30	
8月24日(水)	9:00 ~	受付						FD 8月23日(火) FD担当者研修実施予定 小林直人、中井俊樹、清水栄子、 小林忠資(愛媛大学)
	1 10:00 ~ 12:00	FD/SD 2401A 大学の危機管理 吉田一恵、倉田千春(愛媛大学)	SD 2401B 社会連携プログラム◆ 地域特性論 前田真(愛媛大学)	SD 2401C SDプログラム 宮内卓也(高知大学)	FD/SD 2401D 大学組織を理解する 中井俊樹(愛媛大学) 宮林常崇(首都大学東京)	SD 2401E 大学における障害学生支援とは? -障害者差別解消法と 合理的配慮- 坂井聡(香川大学)	FD 2401F アイスブレイクの技法 加地真弥(愛媛大学)	
	2 13:00 ~ 15:00	FD 2402A 理工系講義形式授業において学 生の学習を促進する授業デザイン 榊原暢久(芝浦工業大学) 吉田博(徳島大学)	SD 2402B SDプログラム 次世代リーダー養成ゼミナール (6期生) 初任者クラスプログラム	FD 2402C 経験から学ぶ力を育てる 塩崎俊彦(高知大学)	FD 2402D 反転授業をやってみよう 金西計英(徳島大学)	SD 2402E 図書館職員に求められる能力 井上真琴(同志社大学)	FD 2402F 質問を変えると授業が 変わる?!! 川野卓二(徳島大学)	
	3 15:30 ~ 17:30	SD 2403A 知財管理の基礎知識 木村友久(山口大学)		FD 2403C クリティカルシンキングを 育成する課題設定をしよう 久保田祐歌(徳島大学)	FD 2403D ルーブリック評価入門 ~考える、つくる、活用する~ 俣野秀典(高知大学)	FD 2403E 大人数講義法の基本 小林直人(愛媛大学)	FD 2403F 経験学習入門 高橋平徳(愛媛大学)	
17:40 ~ 19:00	ポスターセッション 会場:共通教育講義棟B 201講義室							
8月25日(木)	1 10:00 ~ 12:00	SD 2501A SDプログラム 丸山智子(愛媛大学) 藤巻晃(徳島文理大学) 初任者クラスプログラム	FD/SD 2501B 国際連携プログラム◆ 海外派遣入門 塩川雅美(梅光学院大学)	FD 2501C 日常の経験知で仮説を立て、 データを分析する~学生支援型IRを はじめてみませんか?~ 杉田郁代(高知大学)	SD 2501D 人材育成のための人事評価 阿部光伸(愛媛大学) 管理職クラスプログラム	FD 2501E 研究指導入門 近田政博(神戸大学)	SD 2501F コーチング入門 小林忠資(愛媛大学)	
	2 13:00 ~ 15:00	FD 2502A グラフィックシラバスを書こう 宮田政徳(徳島大学)	FD 2502B 教職員のための思考プロセスの 可視化と共有(仮) 吉田広毅(常葉大学)	FD 2502C 始めよう!アクティブ・ラーニング- 協同学習・文章作成の技法編- 西本佳代(香川大学)		FD/SD 2502E トッリーダーセミナー 「大学のガバナンス改革を理解する」 大場淳(広島大学) 司会 中井俊樹	FD 2502F ディープラーニングに誘う アクティブ・ラーニングの手法 ~物理、化学の実践例より~ 立川明(高知大学)	
	3 15:30 ~ 17:45	FD/SD 2503G シンポジウム「経験を学びに変える教育と能力開発」 会場:南加記念ホール 日向野 幹也(立教大学)、村山 孝道(京都文教大学)、村田 晋也(愛媛大学) 司会 小林直人						
18:15 ~ 20:15	情報交換会							
8月26日(金)	1 10:00 ~ 12:00	FD/SD 2601A 視覚障害学生支援 (筑波技術大学拠点)	SD 2601B 大学職員の基礎力を考える 丸山智子(愛媛大学)	FD/SD 2601C 教育データ解析入門・応用 中山晃、清水栄子(愛媛大学)	FD 2601D ルーブリック評価入門 ~考える、つくる、活用する~ 俣野秀典(高知大学)	SD 2601E SDプログラム 泰敬治(追手門学院大学) 中堅クラス以上プログラム	FD 2601F 学生の学びやすさと 学習意欲を高める授業設計 -課題分析図の活用- 仲道雅輝(愛媛大学)	
	2 13:00 ~ 15:00	FD/SD 2602A 聴覚障害学生支援 (筑波技術大学拠点)	SD 2602B ラウンドテーブル これからのSDを考える 久保秀二、織田隆司(愛媛大学)		FD/SD 2602D ラウンドテーブル 学生の経験を学びに変える 小林修(愛媛大学)			

210 180 240 360 540 216
合計定員1946名(SPODフォーラム2015定員:1661名、実数1507名)

FDプログラム 17(うち連続1※FD担当者研修除く) FD/SD共通プログラム 9(うち連続1)
SDプログラム 12(うち連続3)

合計38(FD17、SD12、FD/SD共通9、うち連続5)
◆を付したプログラム SPOD-SDマップに基づき開講されるプログラム